

2020年11月28日 福井県内科医会学術講演会 座長 報告
特別講演1

心不全薬物療法の進歩 (Web 講演)

絹川弘一郎 先生 (富山大学 学術研究部医学系内科学 (第二) 講座 教授)

心不全患者数の増加が著しく、感染症の広がりにより使用される用語をもちいて“心不全パンデミック”と言われるようになり対応が急務であること。日本における心不全治療薬に新しいものが使えるようになってきた点で2020年は特別な年とも考えられるとのこと。従来の心不全治療のオーバービューのご解説をされた後に新しい薬として、①ARNI (エンレスト)、②イバブラジン (コララン)、③SGLT-2 阻害薬の心不全患者さんへの適応拡大 (フォシーガ) につきご解説いただいた。心不全の治療薬として ACE 阻害薬は心不全ステージの早い段階から適応になってくるが、いままでの薬剤で ACE 阻害薬 (エナラプリルを使用した研究) に勝る薬は出てこなかったが、ARNI がエナラプリルに勝る心不全治療薬として登場し期待が持てるのお話であった。心拍数のコントロールの重要性とその面の治療薬としてイバブラジンが使用できるようになったことが解説された。

フォシーガの心不全患者さんへの適応拡大はご講演の数日前に発表されたトピックスでもあったが、絹川教授はなぜ糖尿病治療薬として世に出たこの薬が心不全に効果があるのかについてのご自身の私見もまじえて丁寧にご解説いただいた。

Web 講演会で行われたが、距離を感じさせない迫力のあるご講演であり大変有意義な時間でした。

(福井県立病院 脳心臓血管センター 循環器内科主任医長 野路 善博)